

トピックス

日本応用動物昆虫学会第50回大会記

社団法人日本植物防疫協会研究所 岡 田 齋 夫

日本応用動物昆虫学会は、1961年(昭和32年)に応用動物学会と日本応用昆虫学会が合併して設立された。今年の大会は50回目、50周年記念の大会で、3月27日から29日の3日間にわたってつくば市内で開催された。1日目はつくば国際会議場(エポカルつくば)で総会と記念行事および懇親会が、2日目と3日目は会場を筑波大学に移して一般講演と小集会が行われた。大会は河野義明大会会長(筑波大学教授)のもと、つくば周辺の大学や試験研究機関の会員などが委員となって組織運営され、記念行事を含んだ盛りだくさんの内容であった。参加者は約700名、懇親会も550名が集い盛会であった。

1日目午前に、河野大会会長および田付学会会長(東京大学教授)の挨拶に続いて総会が行われた。学会賞は山村光司氏(農業環境技術研究所)「昆虫の個体群パラメーター推定のための統計学的解析手法に関する研究」と、早川洋一氏(佐賀大学農学部)「発育阻害ペプチド(昆虫サイトカイン)の発見とその作用機構に関する一連の研究」が受賞した。奨励賞は仲島義貴氏(帯広畜産大学畜産学部)「天敵昆虫の行動制御に関する化学生態学・行動生態学的研究」と、太田泉氏(農研機構・野菜茶業研究所)「土着寄生蜂を活用した施設野菜害虫アブラムシ類の生物学的防除に関する研究」が受賞した。表彰式に続いて4氏の受賞講演が行われ、興味深い内容に会場から大きな拍手が贈られた。

午後は50周年記念行事が行われた。内容は①記念式典、②記念講演、③パネルディスカッション、④学会ロゴの入選発表と表彰、⑤記念出版の報告および⑥記念行事第二部小中学生向け昆虫教室の紹介であった。

①記念式典は田付貞洋学会会長および河野義明大会会長の挨拶があり、②記念講演「応動昆の生い立ち」に移った。初めに、「応動昆の半世紀」として二学会の合併にいたる経緯から本学会全般の生い立ちについて、梅谷献二名誉会員(独)農業技術研究機構フェロー)の講演があった。続いて多くの会員に興味がある分野の進歩発展状況について、桐谷圭治名誉会員(元 アジア・太平洋地区食料・肥料技術センター)は「昆虫の生態研究と応動昆」、正木進三名誉会員(元 弘前大学農学部)は「昆虫の季節適応の研究と応動昆」、日高敏隆名誉会員(総合地球環境学研究所)は「昆虫の行動研究と応動昆」

についての講演があり、各分野の講演数、誌上発表数の伸び状況、学会賞受賞状況、研究内容の高度化などについて紹介した。それらの内容については、⑤記念出版の応動昆和文誌50巻2号「50周年記念特集号」を参照されたい。

③パネルディスカッションは「これからの応動昆：害虫防除研究のあり方」として、坂井道彦氏(元 オリノバ)と沼田英治氏(大阪市立大学大学院理学研究科)の司会で行われた。パネリストは農業現場に接した研究・普及・指導にあたる者、大学や農研機構の基礎的・応用的研究者、防除剤の開発研究者、若手・女性研究者、大先輩等広範な層をカバーできるように、井上雅央氏(奈良県農業技術センター、現 近畿中国四国農業研究センター)、矢野栄二氏(近畿中国四国農業研究センター、現 近畿大学農学部)、仲井まどか氏(東京農工大学農学部)、大野和朗氏(宮崎大学農学部)、榊井昭夫氏(日本化薬(株))および岸本良一氏(元 三重大学農学部)の6氏であった。討議内容は多岐にわたり、学会に対して数点の要望・検討事項が出された。内容については、⑤応動昆和文誌50巻2号を参照されたい。

④学会ロゴは木村好江氏(大阪芸術大学短期大学部)の作品が選ばれ、表彰された。

⑤記念出版は、安田耕司氏(独)農業環境技術研究所)を編集委員長とした多数の執筆による「農林有害動物・昆虫名鑑」の増改訂出版、および応動昆和文誌50巻2号を「50周年記念特集号」として記念行事関係に掲載することとした。なお、名鑑は会員には無料で配布し、会員外は(社)日本植物防疫協会から購入できるようにした。

⑥記念行事第二部として、「小中学生向け昆虫教室」を茨城大学農学部で、後藤哲雄教授を中心に夏休みに3回、いずれも土曜日に開催する。内容は上記⑤応動昆和文誌50巻2号を参照されたい。

記念行事は筆者が委員長となった実行部会が、全国各地の女性会員や若手会員からなるコメント部会に案を諮りながら8か月をかけて準備した。記念行事が行われた大ホールは、当日は450名収容可能な状態に調整されたが、立ち見席が出るほどの盛況ぶりであった。

2日目と3日目の一般講演は、生態学、生理・生化学、害虫管理、生物的防除、斑点米カメムシなど34部門、499題の講演が10会場に分かれて行われた。

Impression on the 50th Annual Meeting of the Japanese Society of Applied Entomology and Zoology. By Muneo OKADA

(キーワード：日本応用動物昆虫学会、第50回大会)